

2022年度 春日エリア合同クラス連絡会 議事録

公開用

目次

概要	2
開会	3
議題1: 学生生活アンケート 別紙資料1	3
1. 宿舎への宅配ボックス設置について	3
2. 北大通で喫煙している教員がいるとの報告について	3
3. 春日食堂について	3
議題2: 知識情報・図書館学類開設授業のアンケート 別紙資料2・3	4
1. 初年次教育の対面授業について	4
議題3: 情報メディア創成学類開設授業のアンケート 別紙資料4	4
1. 講義について	4
2. クリエイティブメディアラボ(以下クリラボ)について	5
議題4: 2022年度春日新歓の報告 別紙資料5	5
質問・意見等	6
Cモジュールの過密について	6
報告書について	6
ABモジュールの過密についてのアンケートについて	7
改訂版シラバス公開への第7波の影響について	7
閉会	8

概要

開催日

2022年7月21日

開催時間

18時30分～19時50分

開催場所

zoomにて開催

参加者:

知識学類生

知識議長、知識教育局長、他8名

創成学類生

創成議長、副議長兼新歓委員長、他6名

教職員

知識学類長、創成学類長、他19名、支援室職員1名(以下、支援室)

全体進行

知識議長(以下、議長)

本議事録では上記に特筆した役職以外の教職員の方々を「教員」、学生を「学生」と表記する。同じ議題の中で学類について表記する必要がある場合は最初に明記、区別する必要がある場合は数字を後ろにつける。同じ数字の発言者は、同じ議題の間のみ同じ人物を表す。

開会

議長 開会の挨拶

レコーディング、議事録の公開についての説明

議事録は掲示し、簡略版をメーリングリストとホームページにて公開

質問・意見の受付

本資料をもとに、本会の目的について、クラス代表者会議についての説明

本資料訂正 誤 春日エリア→正 春日地区

今回の議題についての説明

議題1: 学生生活アンケート 別紙資料1

議長 アンケートの概要・結果についての説明(別紙資料1参照)

議題とするもの3点

1. 宿舎への宅配ボックス設置について

学生 宅配ボックスについて、検討していただけるのか。

支援室 学生からの強い要望があれば検討することはできるが、詳しい情報がない。

学生 夏季休業期間中に追加調査を行う。

2. 北大通で喫煙している教員がいるとの報告について

学生 事前打ち合わせの際に、喫煙している人物が教員であるかどうかの追加調査を行うとしていたが、今の時点ではできていない。今後、追加調査を行うが、大学関係者でなければ大学側は動けないのか。

支援室 大学関係者であれば、個人に対して注意喚起ができる。

学生 学生や教職員に対して、広く注意喚起することに対して意見はあるか。
もし広く注意喚起する際には、クラ代のみで行うのかそれとも支援室等と合同で行うべきか。

特に挙がらなかったため、追加調査待ちとして持ち帰る。

3. 春日食堂について

学生 春日食堂に対して多く意見や要望が集まったため、春日食堂と学生が議論できる機会を設けられれば良いと思っている。

議題2: 知識情報・図書館学類開設授業のアンケート 別紙資料2・3

学生 春学期の授業アンケート結果の報告と議題の提案(別紙資料2・3参照)
別紙資料2の訂正 実施期間 誤 統計→正 ファーストイヤーセミナー
回答数について、1年生19・2年生40と1年生からの回答が例年と比べて少ない
授業に満足しているという意見が多かった。教員のおかげであり、感謝している
1年生から議題の提案をする

1. 初年次教育の対面授業について

学生 対面授業で対面の良さを活かさないか。
新型コロナウイルスの前(2018年度と2019年度)と後(2022年度)のシラバスについて比較
すると、コロナ前では、中央図書館の見学や自己アピール等対面の良さを活かした授業
を行っていたのに対し、コロナ後は、座って聞くだけの講義が多く、交流が少なかった。
現在もコロナウイルスの感染が収まっているとは言えないが、対策することで対面の良さを
活かした授業ができないだろうか。再検討していただきたい。

教員 ファーストイヤーセミナーについて詳しく把握できていない。
経緯としては、新型コロナウイルスの流行によって急に全面オンラインとなり、初年次教育
についても変えなければならなかった。昨年度からは授業形態を対面に戻している
が、中身はオンラインに変えた時のままなのではないか。
初年度教育グループと相談し、検討する。議題の趣旨に関しては賛同し、これについても
検討する。

議題3: 情報メディア創成学類開設授業のアンケート 別紙資料4

学生 アンケート結果の報告(別紙資料4参照)
講義全体についてとクリラボについて

1. 講義について

学生1 ABモジュールに講義が集中しているため、Cモジュールにも分散してほしい

教員 創成のカリキュラム委員会担当である。単位数の問題や期末試験の日程、学会準備
等の事情により積極的にC学期に動いてくれる先生はあまりいない。教学デザイン室か
らABの過密を解消するよう提言があった。
案として、BC開講の授業を増やすことを検討しているが、学生としてはどうか。

学生1 現在ABの密度が高いが、ABとBCの重なるBの期間に過密にならないれば歓迎する。

学生2 Bの期末に余裕が出るので歓迎する。

学生3 上二人と概ね同意見。

教員 学生から前向きな意見を聞いたことを嬉しく思うが、実現に関しては約束できない

い。

BCの科目は、ABの期末試験期間中も授業を行わなければならない。ABの科目をBCにスライドさせることが多いと思われるので、Bの密度が上がることはないのではないか。テスト期間中も授業があるということを学生はどう思うのか。

学生1 個人的にそこまで問題ではない。創成の授業はレポート主体の成績評価が多かったため重なっても問題は少ない。

教員 対面になると期末試験は増えると思う。ABの期末試験と重なるBCの中間レポートに関しては教員側が配慮してくれるのではないかと。学生側がポジティブであることを理解した。持ち帰って検討する。

学生1 個人的には賛成だが、全体の意見を取るため、夏季休業中にアンケートを行い学生の意見を集計する。

教員 是非お願いします。来年度の調整は7～8月のため、来年に反映することはできないが、学生のデータはありがたい。また、カリキュラムを変更することになった場合は、一度にはできないため、何年かかけて行うことになる。

2. クリエイティブメディアラボ(以下クリラボ)について

学生1 興味分野のために、大学側で利用できるようにしてほしい機器についての調査をした。

新型コロナウイルス流行前に行なっていた機器の貸し出しについて、希望している学生が7割を超えている。各所でクリラボについて自由に使用できる空間として紹介されているにもかかわらず、現状使用できていない。

クリラボを学類HPの文言通り自由に使えるフリースペースとなることを要請する。これはクラ代からの要望であり、クリラボ管理委員会とは別である。委員会との連携は秋学期開始までに行う。

教員 施設・計算機運用委員会の教員。資料のクリエイティブメディアラボのメディアが抜けている。

クリラボの利用について学生から要望が出ていることは認識している。大学側の感染を防ぎたいという考えや感染状況を考慮しつつ、使用できるようにしていきたい。

この2年間で、Macのリース期限が終了し撤去されるなど状況が変化している。クリラボに何が期待されているのか不明な状態。今後検討が必要。

居室として利用できるように前向きに検討している。整備の観点では、予算もあるため時間をかけて勘案していく必要がある。

3Dプリンターに関しては、利用方法や安全性の確保に関して課題があるため、今後学類の方針として学生に対してお知らせする。

学生からの質問はあるか。

学生2 いつまでに連絡が来るのか。

創成学類長 ほとんど纏まっているので近々と言っているが、第7波の影響が心配される。

教員 感染状況を見据えつつ、近々見解を出す。

議題4:2022年度春日新歓の報告 別紙資料5

新歓 2022年度の新歓についての報告(別紙資料5参照)

特に質問箱が役立ったのではないかと。入学前に知りたい情報について、支援室の協力も得ながら新入生に対して提供できた。

公式LINEについては、名簿と照らし合わせて信頼性を確保した。

対面開催を最小限におこなったが、来年度は対面で行えればと思っている。

質問・意見等はあるか

教員 LINEの本人確認について

学生にはMicrosoftアカウントが配布されている。Teamsを利用すれば本人確認の手間が省けるのではないかと。

新歓 Teamsは新入生が使い慣れていない可能性がある。

使い慣れているであろうLINEを利用した。またスマートフォンで連絡を取りたいということもあった。

知識 本日の議題は終了

全体を通して意見・質問はあるか

質問・意見等

Cモジュールの過密について

教員1(創成) 春Cの話について、創成の教員と知識の教員で交流がしたい。

知識からは要望がでていないが、知識の方の状況を知りたい。

教員2(知識) おそらく創成と状況は似ている。

知識もABを前提に作っている。Cは長期休暇前であり、短期留学などの機会に当てられるよう必修を入れることがないようにしていた。また、そのような通知が全学的にでていた。今般のオンライン授業によって変化しているのではないかと。何を優先するべきなのか検討する必要がある。要望は出ていないが、若干の不満があるのではないかと。

知識の個別の事情として、科目数の増加によりCに科目を移しようがなくなっていることがあげられる。

教員1 Cにはあまり授業を開設しないようにという以前の方針は知らなかった。

教学デザイン室から、ABの過密についての提言があったが、このまま進めていいのだろうか。

教員2 提言の脚注にAB過密にはこれまでの方針が影響していると書いてある。

教員1 知識のCには1単位の授業を入れているのか。

教員2 2単位の授業を入れている。1週間に2回2コマ続けて無理やり入れている。できる科目とできない科目があると思う。

教員1 知識の学生はどのように考えているのか。

学生1(知識) ABは過密でCはそんなに入っていない。これは昨年度と同じ印象で、テストがなかったのが辛さを感じていない

学生2(知識) AB過密だとは感じてこなかったため、Cに移してほしいという気持ちはない。現状でいいと思っている。

教員1 創成の学生は、ABが過密だからCに移してほしいのか、Cが少ないから増やしてほしいのか。

学生(創成) ABが過密であるという意見があり、Cに移すしかないとの考えである。

報告書について

- 教員 教育局局長という役職名が言いにくそう。
資料の番号につけられている丸つきの数字①、環境依存文字であるため当環境では文字化けを起こしている。文字の選び方を変えるべきではないか。
学生生活アンケートにおける幾つかの項目は、知識と創成で傾向が異なるのではないか。内訳を出した方がいいのではないか。
新入生を対象とした新歓についての報告(別紙資料5)はあるが、移行生の新歓についてはどうなっているのか。
- 学生 環境依存文字については、次の資料から修正する。
アンケートの学類ごとの内訳については、次回の調査から反映させる。
移行生向けの新歓について、キャンパスツアーの企画をしていたが、不要だと考え行わなかった。また、2年生同士の交流会をZoomにて開催したが、人があまり集まらなかったため報告書には記載しなかった。
- 新歓 移行生向けのZoomイベントは、創成生50人中10人程度の参加者だった。移行生向けの交流会を来年も行うかどうかについては否定的。
Zoomでの交流に対して魅力がなくなっているのではないか。来年度対面で行えるかわからないが1年生に任せたい。
- 教員 考えて行なっていることは、報告書に書いておけば教員にわかるので記載した方がいいのではないか。
- 学生 来年度の報告には、移行生向けの新歓についても記載する。

ABモジュールの過密についてのアンケートについて

- 教員 ABモジュールの過密について学生にアンケートをとる際に、Cモジュールにどれくらい勉強しているかを聞くのはどうか。過密については個人差があるので、どの程度を過密と思っているのか知りたい。
- 学生(創成) ABの授業をBCに移すことの是非に加えて、Cの勉強時間についても調査し組み合わせる集計するということでもいいか。
- 教員 時間だけでよい。実態がどうであるかを調査したい。
- 学生(知識) 大学の授業以外に個人の研究活動を行なっている人もいるので、その点も含めて調査するといいいのではないか。

改訂版シラバス公開への第7波の影響について

- 学生(創成) 前回の「教育課程FDグループの教員の皆様と知識教育局の話し合い」(以下FD会と記す)の資料で、対面を基本とする方針に合わせた改訂版のシラバスを8月に公開するとあったが第7波の影響によってシラバスの公開が延期することはあるのか。
- 教員1(知識) 基本的には予定通り行いたい。7月末の時点で、全体の方針と形態が変更される授業の一覧が出るが、その時点でシラバスを書き換えるのは難しい。第7波に大きな影響を受けるのではないかと思うが、何がどれくらい影響を受けるかはわからない。
現在、自治体や大学からの指針は出ていないが、県の基準がステージ4になればオンラインになるかと思う。現時点で、秋学期から対面の授業形態を基本と

する全学方針は変わっていない。シラバスは第7波の影響を受けない形で公開されるだろう。

学生： 創成の見解は

教員2(創成) 公開する予定はない。全学に任せる。ぎりぎりになると思う。大学の方針が変わっていないので、このまま行くのかなと思っている。

議長 学類長から何かあるか。

知識学類長 特にない。

創成学類長 クリラボに関してさらに協議を進める。

閉会

知識 閉会の挨拶

秋学期のクラス連絡会は、学類ごとに学習面を中心に扱う。

以上